

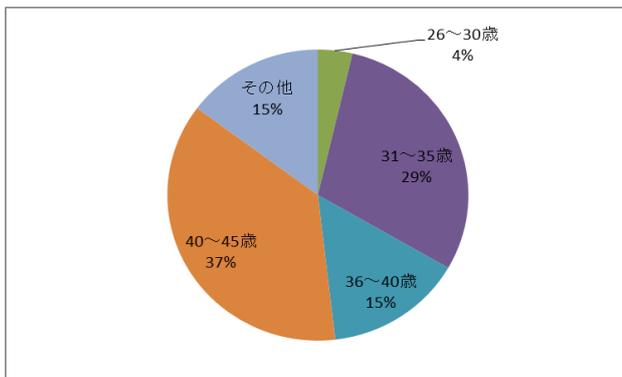
がんと向き合うママ支援プロジェクト  
アンケート調査結果（2013年2月10日現在）

がんと向き合うママ支援プロジェクトが実施するアンケート調査にご協力頂き、誠にありがとうございました。2013年2月10日現在の結果（累積）を発表します。

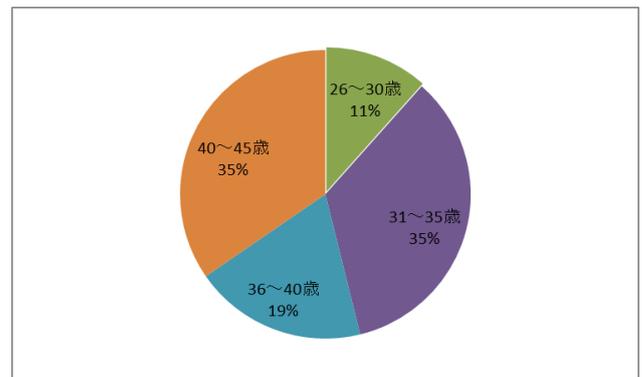
【回答者本人に関して】

前回と同様、発症年齢は40～45歳が最も多いが（35%）、30歳未満また30代前半で発症した回答者が増加している。発症後1年未満、1年～2年の回答者が約6割となった。また、初回は発症後に何らかの仕事を持つ人が増えるという結果が出たが、前回及び今回の回答者を累積した結果、発症時・現在の仕事の有無に関する大きな割合の変化は見られなかった。最終的には、回答者個々人の仕事の有無に関する変化も併せて集計して報告したい。

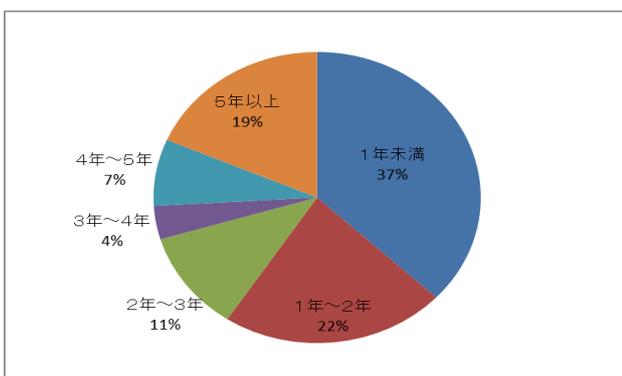
図表 1-1 現在の年齢



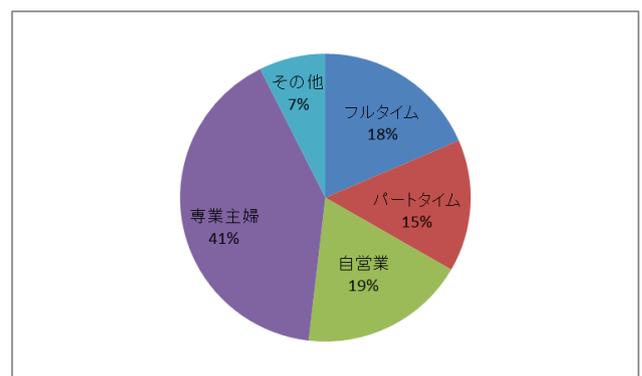
図表 1-2 発症時の年齢



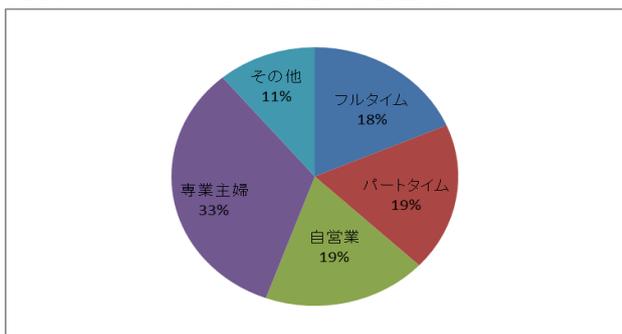
図表 1-3 診断からの年数



図表 1-4 仕事の有無（現在）



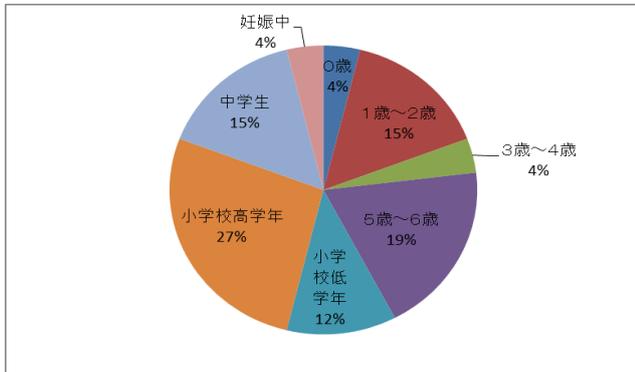
図表 1-5 仕事の有無（発症時）



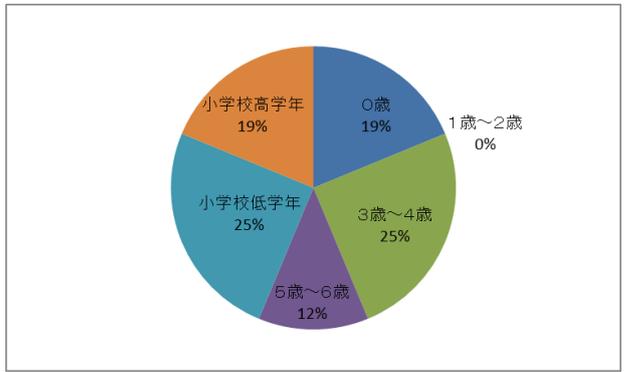
**【子ども・子育てに関して】**

前回調査結果と同様、発症時の子どもの年齢は分散している。なお、二人以上子どもを持つ者は現時点で回答者の約60%となっており、子どもの最大数は4人である。

**図表2-1 発症時の子どもの年齢（1人目）**



**図表2-2 発症時の子どもの年齢（末子）**

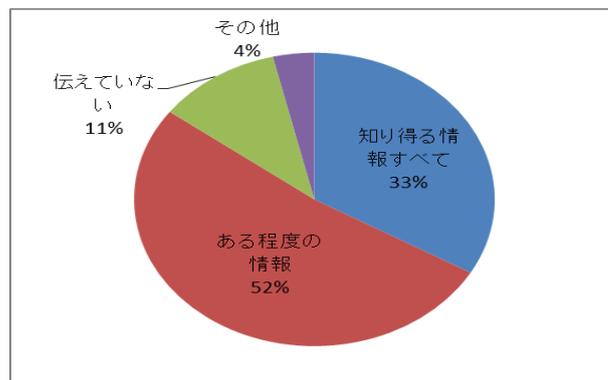


また、子育てに関する変化が「有る」と答えた回答者は、前回の67%から74%に上昇した。具体的には、友人、夫、(義)両親による手助けが増えたとの回答が目立ったが、「人を雇った」り、「訪問看護」や「保育園」を利用し始めたという回答もあった。また、「市役所の生活課に相談し、収入がなくなった3ヶ月後からは保育料は無料になった」という回答も頂いた。制度利用に関する貴重な情報として、掲載させて頂く。

**【子どもへの病気に関する情報提供】**

「お子様にどのくらい病気のことを伝えていきますか」という質問に対し、「知り得る情報すべて」あるいは「ある程度の情報」を伝えているとの回答者が8割強を占めたが、「伝えていない」回答者も1割にのぼった。積極的に伝えている理由として、「隠すと子どもが不安に思うから」「病気と闘っている姿を見せて生きることの尊さを知ってもらいたかったから」「死んでしまうのに、隠し事は出来ない」といった回答のほか、「発症当時は、私自身ががんを受け止められなかったので子供には何も伝えなかったが、現在は聞かればほとんど話している」という回答が新たにみられた。一方で、事細かにあるいは全く情報を伝えていないという回答では、例えば乳幼児である等、子どもの理解度が低いと考えられるため、現在元気なので、まだ受け止めきれない状況の子供に、更に詳しく報告するのは酷なので、不安一杯にさせたくない、といった回答に加えて、「私の病気のことよりも大事なことがあるため」といった回答が新たに挙げられた。

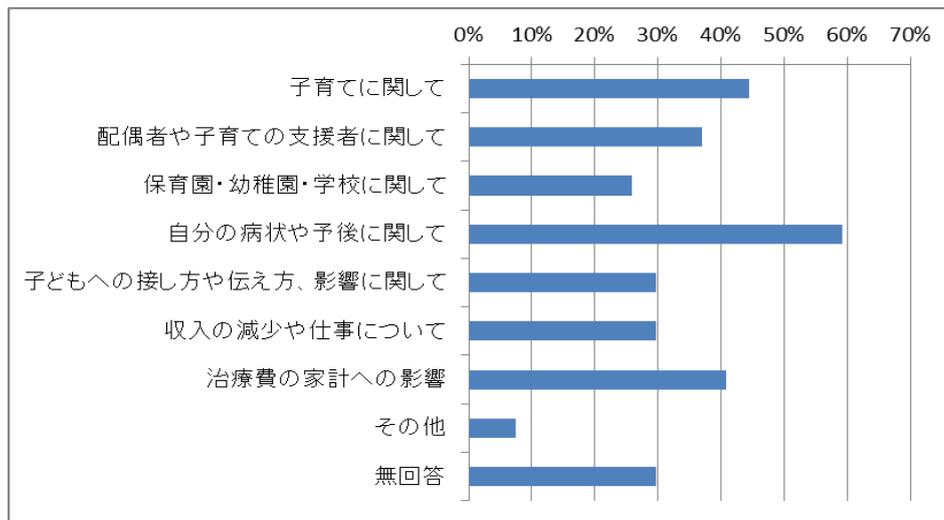
**図表3 子どもへの病気に関する情報提供**



### 【悩みやストレスについて】

回答者の85%が、病気になったことで生じた家族関係・人間関係の変化が「有る」と答え、約7割がその変化が悩みやストレスをもたらしていると回答した。具体的な回答内容のなかには、「自分が病気を受け止めきれず、精神的に余裕がなくなってしまった。本当ならこの先いつまで生きていられるかわからないのだから、子どもには笑顔で接し、楽しい毎日を過ごしたりしたいのに、ついあれもこれもと子供に求めてしまい、上手いかずに怒ってしまったりする。そういう自分に自己嫌悪に陥る。」という回答や「まだ1年未満で再発等不安が大きいことと、子どもにいつ頃伝えるかについて。また、子どもに伝わるのが怖いため、ママ友にも一切伝えていない。」といった回答がある。

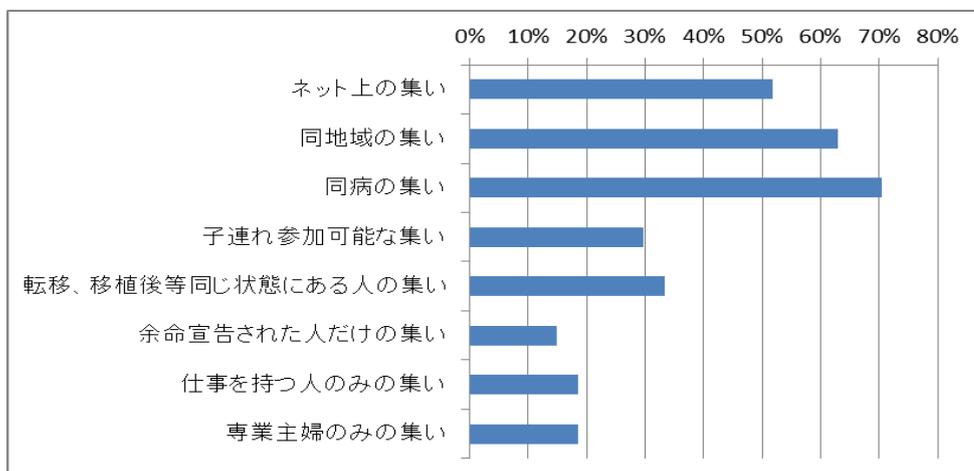
図表4 病気になったことで生じた悩みやストレスの内容



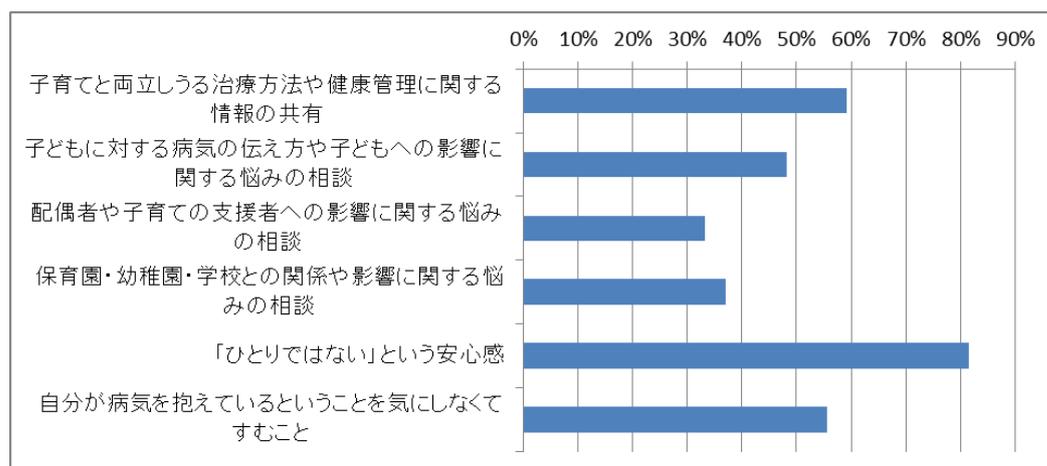
### 【ママ同士の集まりについて】

回答者の約9割がママ同士の集まりに興味・関心が「有る」と答えた。どのような集まりを望むか複数回答形式で尋ねたところ、前回同様「同病の集い」が約7割と最も多く、次いで約6割強が「同地域の集い」を希望していた。「転移、移植後等同じ状態にある人」、「余命宣告された人だけ」の集いについては、引き続き開催を検討中である。

図表5-1 どのような集まりを望むか



図表5-2 集まりに期待すること



集まりに期待することとしては、8割の回答者が「ひとりではないという安心感」を挙げ、6割近くが「子育てと両立しうる治療方法等に関する情報の共有」「自分が病気を抱えているということを気にしなくて済むこと」を挙げた。また、「子どもに対する病気の伝え方、子どもへの影響に関する悩みの相談」についても半数が期待している。

- ◆プロジェクトでは引き続きアンケート回答者を募集しています。より信頼あるデータを発表し、がんと向き合うママたちに何らかの還元ができるよう努めていきますので、調査へのご協力をお願いいたします。⇒ <https://qooker.jp/Q/auto/ja/mama01/0/>
- ◆本調査結果およびサロンやプチ企画会議の結果をもとに、今後のプロジェクトの在り方及び方向性を決めていきたいと思っています。また、最終調査結果は、全国のがん拠点病院や子育て関係施設（保育園、幼稚園、学校、児童館等）にも配布したいと思っています。各地域での活動を展開していくためにも、広く皆様のご協力をお願いいたします。

#### お問い合わせ

がんと向き合うママ支援プロジェクト（NPO法人楽患ねっと事務局付）

URL: <http://www.rakkan.net/mama/> Email: [kosodate★rakkan.net](mailto:kosodate★rakkan.net)（★を@に変更して下さい）